

仕えるための解放

出エジプト記一〇章

モーセとアロンはファラオのもとを訪れ、彼に言った。「ヘブライ人の神、主はこう言われる。『いつまで私の前にへりくだるのを拒むのか。私の民を去らせ、私に仕えさせよ。』」(3)

モーセは諦めることなく、イスラエルの民を去らせるようにとファラオと交渉を続けます。神がその民をエジプトから解放される理由は、もちろん苦しい奴隷状態から自由にされるためですが、その自由とは「自分勝手」という自由ではありません。今日の聖句にあるように、神に仕えるための自由です。すなわち、エジプト王の奴隷から神のしもべになることを主は願われたのです。ここで「仕える」とは、神を礼拝するということです。神を礼拝して生きる民となるのです。同じように、私たちが罪の奴隷から解放されたのは、イエス・キリストの父なる神をわが主人とし、生涯をかけてこの方に仕えるためです。今、私たちの人生の主人は誰になっているでしょうか。神でしょうか、それともやっぱり自分でしょうか。全生涯をもって主なる神にお仕えし、礼拝しようではありませんか。